



TICAD8の開催会場（チュニス）



第8回アフリカ開発会議 (TICAD8)に大橋・加留部 両サブサハラ地域委員長が参加

2022年8月27、28の両日、日本政府、国連、国連開発計画（UNDP）、世界銀行、アフリカ連合委員会（AUC）により、第8回アフリカ開発会議（TICAD8）がチュニジアの首都チュニスで開催された。

ドイイベントは原則オンライン実施となるなど、様々な感染対策が講じられた。

TICAD8全体会合



コマツ会長
大橋 徹二
(おおはし てつじ)



豊田通商
シニアエグゼクティブアドバイザー
加留部 淳
(かるべ じゅん)

TICAD8はアフリカ開発をテーマとして、3年に1度開催される国際会議であり、今回は、2016年ケニアの首都ナイロビでのTICAD6以来、2度目のアフリカ開催となった。一方、新型コロナウイルスの影響はまだまだ避け難く、参加者の人数制限が行われるとともに、サイ

TICAD8全体会合では、首相特使の林芳正外務大臣およびアフリカ各国首脳等が参加する中、「経済セセッション」において、大橋徹二サブサハラ地域委員長がスピーチを行った。大橋委員長は「アフリカは、中間所得層の増加が期待されるとともに、豊富な資源を有しており、大きな発展の可能性を秘めている。アフリカは、AUC（アフリカ連合）が2015年に採択した長期ビジョン『Agenda 2063』をベースに内発的・持続的な発展

の道を歩み始めており、日本としては、そうしたアフリカの動向に即して、ハード・ソフト・ヒューマンの3つのインフラ整備を通じて伴走支援をしたい」との意向を示した。

TICAD8ビジネスフォーラム

また、TICAD8と並行して「TICAD8ビジネスフォーラム」（主催：JETRO、共催：外務省・経済産業省、後援：経団連）がサイドイベントとしては唯一、現地対面形式で行われ、日本・アフリカの企業関係者、政府関係者が多数参加した。

同フォーラムは、岸田文雄首相からの「日本とアフリカは、課題への解決を共創し、『共に成長するパートナー』である。日本政府も、スタートアップ支援、グリーン投資、人への投資をはじめ、アフリカ・ビジネスを最大限支援していく」とのビデオメッセージに始まり、チュニジアのサイド大統領およびAUC議長長のセネガルのサル大統領による基調講演に続いて、大橋委員長と加留部淳サブサハラ地域委員長が挨拶した。席上では、日アフリカ協業に係る90件の連携覚書のうち33件が紹介されるとともに、イノベーション、グリーン、

アフリカの工業化・経済多角化、ファイナンスなど、アフリカが直面する課題や今後の発展の可能性等について、活発な議論が展開された。

加留部委員長から、経団連が2022年5月に公表した提言（本誌44ページ参照）の基本的な考え方を紹介するとともに、大橋委員長からは、上記3つのインフラのうち、ヒューマン・インフラの整備の必要性を強調した。

各国閣僚および日・チュニジア経済関係者と意見交換

そのほか、中谷真一経済産業副大臣とゴンジ・チュニジア産業・鉱業・エネルギー大臣、マイナ・ケニア産業化・貿易・企業開発庁長官、ホットウ・セネガル経済・計画・協力大臣、アデバヨ・ナイジェリア産業貿易投資大臣との会談に同席し発言するとともに、アデシナ・アフリカ開発銀行総裁と意見交換の機会を持った。

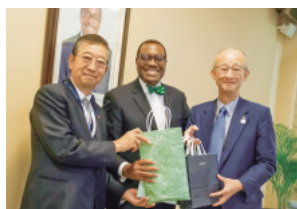
また、TICAD8に先立ち、Tunisian-Japanese Economic Meeting（主催：チュニジア工業・商業・手工業連合会（UTICA））が行われ、大橋・加留部両委員長をはじめ、



開催国チュニジアのサイド大統領と大橋委員長



チュニジアのゴンジ産業・鉱業・エネルギー大臣と加留部委員長



アフリカ開発銀行アデシナ総裁と大橋・加留部 両委員長

日本とチュニジアの経済関係者約40名が参加した。同会合では、日チュニジアの経済関係強化に向けた活発な議論が行われ、共同声明が取りまとめられた。